ゆとり教育の失敗と大人の不作為

浅野　隆

〈ゆとり教育の失敗〉昨今教育界では、改革・変革が流行りであります。現場としては、やや食傷気味なのですが、少子高齢社会の進行、団塊の世代が退職し世代が交代する時代、全ての企業や機関が説明責任を求められている時代。それだけ改革が特に公立高等学校に、求められていた事を考え合わせると、そうも言ってはいられません。

数年前、当時の中山文部科学大臣が学力低下を公式に認め、学習指導要領の見直しを指示しました。学校週5日制の見直しとまでは、まだ言及していませんが、私といたしましては、これにも大ナタをふってほしいと思っています。ものごとは休むと、ダメになるものが多いからであります。

そのころの新聞に『中山文部科学大臣、中学生に謝罪』『ゆとり教育「知識の量少ないかもしれない」』と、視察先の茨城大付属中で、発言したとあります。生徒との懇談で、三年生の男子生徒から「僕たちは小六でゆとり教育を受けて教科書が薄くなり、また厚い教科書に戻っている。将来、僕たちだけの世代が、学力が劣る結果になるのではないか」との意見を出されました。

中山文科相は「塾に行かず学校だけで勉強した人は、知識の量が確かに少ないかもしれない。それは本当に申し訳なかった」と謝罪しました。一国の文部科学相が生徒に謝罪するなどとは、異例でかつ異常で深刻であります。

〈大人の不作為〉ダメなのは我々大人であり、しっかり教えるべきことを教えていないのです。「公」の意識についてもそうです。大人自身がまず学ばなければならない。そして、若い人に教えなければならない。大人の不作為は、いい加減によさねばならない。

次世代の人材教育という意味で、言動・振る舞いの中にも『乃公出でずんば』（乃公出でずんば、蒼生をいかんせん）という雰囲気があるように指導していきたい。

「人として天下の益ならん事を許らず、碌々として一生を過ごさんは禽獣にもおとるべし」。天下とは、公共ということであり、益ならん事とは、工夫と発明のことをさす（司馬遼太郎の『菜の花の沖』にある言葉です）。

国の行政の理念と現場の現実との追いつ追われつの葛藤の中で、阿吽の呼吸を見い出すべく校長は学校経営を推進して行きたいと思っております。よろしくご配慮を願います。

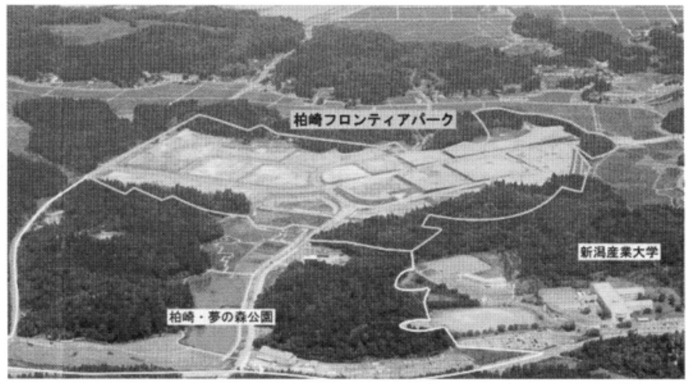
……

浅野隆　昭和26年9月23日北魚沼郡川口町生まれ。長岡市立川崎小、小千谷市立小千谷中、県立長岡高を経て東北大理学部数学科を卒業。柏高は高校教師になって9つ目。校長になって7年目。

がんばろう！輝く柏崎　大震災その後

東芝工場進出へ

来秋、新型電池の生産　フロンティアパークに



《原発、運転再開に》震災後運転ストップの東京電力柏崎刈羽原子力発電所につき、泉田県知事は5月8日、柏崎市、刈羽村と共に7号機の運転再開を了承した。2007年7月の地震以来1年10か月ぶりの再稼働。翌10日から原子炉の起動試験（試運転）に入り、出力を上げて40—50日間点検、実際の発電・送電が行われる。

発電所の出力は、合計821万2千kw（1—5号機各110万、6・7号機各135万6千kw）で世界最大規模。地震後に想定外の揺れに見舞われたのを重視、安全性の検討、点検・復旧工事の終わった7号機について、東電は2月19日、地元に運転再開を申し入れた。市と村は4月8日、容認のため県に三者会談を要請した。

ところが会談の翌11日、所内の倉庫で空調機が燃え出す火災が起きた。原子炉と無関係とはいえ、地震後の火災は9件目、結論は持ち越しになっていた。

発電ストップは、国のエネルギー政策に、地元の財政などにと、各方面に大きな影響を与えてきた。地球温暖化防止からの二酸化炭素（CO2）の抑制、夏場の電力供給不安から、地元の固定資産税などの〝財源不足〟（市で約20％、村で約65％）、関連施設従業員（約4千人）の雇用問題などまでと、深刻化してきていた。

今後は、まだメドの立っていない1—6号機の運転再開の時期が、大きなポイントになりそう。

《東芝、柏崎に進出》東芝が12月24日、柏崎に新型二次電池（SCiB）の生産工場建設計画を発表した。今秋ごろ建設に着工して、1年後量産に入る計画。用地（約3・8ha）には、昨年から分譲募集に入っている「柏崎フロンティアパーク」（31区画、15・44ha＝写真上）内があてられる予定。

新型リチュウム電池は、小型軽量化によって、電動自動車などに使われる一方で、パソコンや携帯電源にもなり、すでに電動アシスト自転車への採用も決まっている。東芝では、1年前から長野県の佐久工場で量産に入っており、柏崎が第2弾となる。

震災の復興を進めている柏崎では〝クリスマスイブのプレゼント〟と、市当局や商工会議所と言っており、大いに期待している。

《まちづくり》柏崎駅前周辺が日本石油加工跡地を中心に、まちづくりを始めています。日石跡地には土地区画整理方式が採られ、中央には核となる「市民会館」が、44億円規模で建設されます。実施設計に入っており、3年後に完成の予定。

用地（11・5ha）の中には、道路（幅17m、14m）など）の新設、都市公園の移設なども含まれ、まちなか居住ゾーン作りにも、災害復興公営住宅（5階建5棟、140戸）もあります。

さらに信越線をへだてた旧小松エスト工場跡地（6・1ha）には、新潟市のウオロクの進出が決定しています。大型スーパーが、来年秋にはオープンの予定で、ホームセンター、飲食店、医院なども店開きの計画があります（写真左）。

《じょんのび村リニューアル》開設から15年の高柳町「じょんのび村」が、施設を改修して4月13日オープンした。温泉・楽寿の湯にはサウナ室を新設、露天風呂も拡張、またどぶろく製造室も設けた。

《「UKビル」オープン》駅前通りの産業文化会館隣に4月7日に開館した。4階建てのインテントビルで、NECソフト柏崎センターなど5社が入居。市の「まちかど再生事業」の一つで、110台収容の駐車場も整備された。

《椎谷岬トンネル》震災復興関連事業として、観音岬下に昨年9月から建設中の国道352号のトンネルが貫通し、4月22日に貫通式が行われた。全長886m、幅9・5m、総工事費36億円。地震では斜面が崩壊して全面通行止めとなったが、現状回復よりもトンネルの方が工事費が安いため、永年の懸案が実現した。開通までには若干かかる見込み。

《観光大使》演歌「海雪」でヒットの米国人歌手ジュロさん(27)を、出雲崎町が4月19日大使に任命した。町民体育館での就任式で、〝任命書〟の大横断幕を前に、「海雪」を熱唱した。

《11年ぶり定員充足》新潟産業大の広川俊男学長（高20）は、4月15日同大の入学生が、11年ぶりに定員オーバーしたと発表。1998年の495人（定員456人）以来で、学部学科の改編で経済学部2学科160人に絞ったうえ、社会人の入学者増、就職率の好成績（全国私大経済学部で1位）などが反映したとみられる。

《柏崎陣屋を保存へ》市内大久保の陣屋は、寛保元年（1741）に築造されてから127年間、桑名藩の役人が越後5郡221か村を支配した跡。明治初年柏崎県が新潟県と吸収合併されるまで、県庁も置かれた。現在藩士長屋2軒があるが「県内でも唯一の存在」で、12月14日に「柏崎陣屋保存顕彰会」が創立された。今後歴史と意義の勉強会に取り組む。

《初の進学成績》創立初卒業生の進路状況が注目された県立柏崎翔洋中等教育学校（全県から6年制の中高一貫学校、校舎は旧柏商跡）の主な成績は、次の通り。

[国公立＝37人] 新潟8、新潟県立4、高崎経済3、東京外国語2、東京、横浜国立、首都大学東京、筑波、東北、金沢1 [私立＝127人] 明治10、青山学院7、早稲田、慶応6、法政、立教4、中央、立命館2、上智1。

半世紀のプロ野球評論　田村大ちゃん死去

半世紀を超えるプロ野球担当のジャーナリスト田村大五氏（高5）が、2月13日胃潰瘍による出血性ショックで死去した。71歳。

参議院速記者養成所をへて昭和30年ベースボール・マガジン社に入り、西鉄ライオンズ、読売ジャイアンツを担当、『週刊ベースボール』編集長から34年報知新聞に移って、コラムニスト、運動部長。50年マガジン社に復帰、編集局長、常務取締役、顧問を務めた。平成4年から18年まで野球殿堂特別表彰選考委員。

著書に『白球の視点』『プロ野球人国記』などのほか、『早大野球部百年史』『プロ野球五十年史』『同六十年史』の編纂がある。2月5日刊行の『昭和の魔術師——宿敵三原脩・水原茂の知謀と謀略』が、遺著となった。

「お別れの会」が4月18日、東京プリンスホテルで開かれた。佐々木信也、中西太さんの別離の挨拶、衣笠祥雄、黒江透修さんら球界関係者が出席したほか、柏崎から会田洋市長、勝海昭・前同窓会長に、柏高同期の原正樹、佐藤早苗さんら約20人も冥福を祈った。

田村さんは、平成13年夏の同窓会講演会で、「プロ野球監督達のチーム作り舞台裏」と題して講演したが、副題の「柏中柏高野球部創部一〇〇年に寄せて」を、『とっこつ』75号（14年6月）から再録する。

新採用校で有終の美に感謝

玉木　正一

このたび定年により、県立柏崎高校を退職いたしました。着任以来3年間、100年を超える輝かしい歴史と伝統を誇る柏崎高校に勤務することに、大きな重圧を日々感じながらも、東京柏会を始め、柏中・柏高同窓会の皆様から、多大な御理解とご協力、さらには温かい励ましや激励をいただき、何とかその職責を果たすことが出来たものと考えております。心から感謝申し上げます。

さて、振り返ってみますと、新採用でお世話になった柏高に、教員生活として最後の勤めが出来ましたことは、望外の幸せでありました。

探求コースから理数コースへ改組、中越沖地震の発生、小国分校の閉校、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定等々、多くの出来事がありました。しかし、豊かな資質能力に恵まれた柏高生と共に、勤務できる喜びがあればこそ、何とかこれまでやってくることが出来たと、思っています。

最後に、自分を育ててくれた柏崎高校に心から感謝すると共に、これからも柏崎高校が光り輝く学校であり続けることを祈念いたしております。長い間、本当にありがとうございました。

（第35代校長）

歴代の校長（高校発足以降）

代	氏名	在任期間	
15代	石川健四郎	（昭和21年3月～24年3月）	
16代	岡島　正平	（24年3月～30年3月）	
17代	山宮　作市	（30年4月～33年3月）	
18代	小池　義公	（33年4月～39年3月）	
19代	豊島良之助	（39年4月～41年9月）	
20代	高木　周二	（41年9月～47年3月）	
21代	北川　正司	（47年4月～49年3月）	
22代	田辺　啓三	（49年4月～52年3月）	
23代	藤田　典夫	（52年4月～57年3月）	
24代	高橋　忠夫	（57年4月～59年3月）	
25代	武田　和夫	（59年4月～62年3月）	①
26代	植木　啓次	（62年4月～63年3月）	
27代	粕川　正之	（63年3月～平3年3月）	
28代	有坂　巌	（平成3年4月～6年3月）	②
29代	佐藤　義雄	（6年4月～8年3月）	
30代	逢坂　勝也	（8年4月～11年3月）	
31代	加藤　洋一	（11年4月～13年3月）	③
32代	吉野十三男	（13年4月～14年3月）	
33代	白井　民夫	（14年4月～16年3月）	
34代	小野　敏夫	（16年4月～18年3月）	④
35代	玉木　正一	（18年4月～21年3月）	
36代	浅野　隆	（21年3月～	

〈同窓の校長〉①中44、②高4、③高11、④高16

1年目600万余円

「ふるさと納税」今年も続いています

132件、615万余円——新しい税のかたち「ふるさと納税」が、スタートして1年。柏崎市が県外居住の関係者向けに、パンフレット作成などでPRしていますが、初年度の状況が、このほどまとまりました。

全国で始まった制度は、新しい税金を指すのではなく、自分で応援したい地方自治体へ寄付をするもの。しかも、応援したい活動を選ぶと共に、寄付額で自分の住む自治体に納入した税金（所得税や住民税）が控除、軽減される仕組みです。

柏崎市の場合、今年3月末までの寄付申込額が615万9600円に達しました。このうち20年末までに納入の59件346万7600円が、新年度予算に組み込まれ、申込者の希望に沿って次の事業に活用されます。

〈中越沖地震からの復興と市長にお任せする＝267万5000円〉日本石油加工跡地を含む柏崎駅前周辺の復興まちづくり総合支援事業に活用

〈ふるさと柏崎の各地域の再生・活性化＝45万円〉綾子舞後継者の育成、海水浴場環境整備に

〈働く場の確保のための企業誘致＝10万円〉柏崎フロンティアパーク内への企業誘致、若者の就職相談など雇用促進

〈少子高齢社会に対応した健康で安心して暮らせるまちづくり＝4万2600円〉母子保健の相談事業

〈次代を担う子どもたちのための教育・文化・スポーツの充実＝20万円〉青少年健全育成事業

＊　＊　＊

21年度も事業は続けられます。市役所へ「ふるさと応援寄附金申込書」を請求し、それで寄付の申し込みをします。1万円以上の寄付者には、市からのお礼（綾子舞コシヒカリ5キロ）や観光情報などが、領収書と共に届けられます。この寄付金領収書を、翌年の確定申告に添付すると、住民税の約10％を上限に所得税と合わせて控除されます。

問い合わせ、申し込みは、柏崎市役所企画政策課（電話0257・23・5111、FAX24・7714）、メールアドレスkikaku@city.kashiwazaki.niigata.jpへ。

とっこつ人往来

（原則として卒業順）

長橋秀男氏（中34、文京区）4月3日死去、90歳。

佐藤正司氏（中45、大久保の御嶽神社宮司）1月4日死去、77歳。

吉田桂継氏（高1、柏新商会会長）3月8日死去、80歳。

小和田恒氏（高3、国際司法裁判所裁判官）2月6日所長に選出された。国際司法裁（ICJ、オランダ・ハーグ所在）は、国家間の紛争解決のため設立され、小和田氏は2003年に就任。日本から国際機関代表としては3人目。任期3年。

神林照道氏（高7、前国立学園小校長）勇退後勤務のさとえ学園小学校（さいたま市）を3月末退職。

小関資朗氏（高8、デザイナー）このほどJR上中里駅近く（上中里1—46—15）に、玄関ギャラリー「歩絵夢とbibiたち」を開設した。食品化されるブタ賛歌を描いた。

故曽田恒氏（高10、市体育協会副会長）1月16日に体育功労賞が贈られた。

内藤久吉氏（高11、東京出雲崎会幹事長）3月14日開かれた総会で、会長に選出された。津山忠夫会長（高6）は名誉会長に。

近藤健彦氏（高12、会長、明星大学教授）『ジャン・モネ回想録』を翻訳、12月に日本関税協会から出版した。フランス籍のモネは、国際連盟発足時の筆頭事務次長、〝欧州統合の父〟といわれ、バンク・オブ・アメリカ副社長も務めた人。

須田賢氏（高14、前東京高裁総括判事、元新潟地裁所長）1月5日で定年退官したが、7日付で市川簡裁判事に就任した。

山田修氏（高17、新潟日報社監査役）3月で定年退職、4月から新潟県監査委員（常勤）に就任した。

滝沢聡氏（高17、TDF社長）6月26日付で退任する。同社はいすゞ自動車系の部品の製造会社。

畳二夫氏（高18、ボスニア・ヘルツェゴビナ大使）2月27日帰郷して、会田洋柏崎市長を訪問した。平成17年からボスニアに駐在、昨年1月大使館設立で初代大使に就任した。

三井田忠明氏（高19、市博物館長）3月末で定年退職した。

広川俊男氏（高20、新潟産業大学長）3月末で任期満了となったが、学長選で再任（25年3月31日まで）された。

安沢正光氏（高20、刈羽村総務課長）3月村議会で副村長に同意された。

北原恵氏（高20、柏崎市市民生活部長）4月の異動で復興管理監兼務に。会計管理者に三井田隆氏（同、会計課長）、危機管理監に須田幹一氏（高22、防災原子力課長）、福祉保健部長に山田秀氏（高24、商工振興課長）が就任した。

近藤正和氏（高42、日本棋院棋士六段）1月25日開かれた将棋連盟柏崎支部の新春大会で、特別審判長を勤めた。7月から開かれるNHK杯テレビ将棋トーナメント戦に出場する。

須田武盛氏（元野田、黒姫両村長）3月5日老衰で死去、101歳。昭和29年に綾子舞保存振興会設立と同時に会長に就任、20数年間務めた。

布村成具氏（新潟工科大学長）3月31日で任期満了になったが、平成23年3月31日まで再任された。

◇死亡通知（遺族より）▽清水金一氏（高6、横浜市瀬谷区）12月12日、72歳▽塩浦剛氏（高10、板橋区）1月22日、69歳▽平義雄氏（高10、千葉市緑区）3月18日、69歳

還暦の同期会　高20回

高20回（昭和43年卒業）の同期会は、10月24日（土）午後5時から鯨波のメトロポリタン松島で開かれる。全体会の開催は、卒業10周年の昭和53年以来2回目。恩師招待、夫婦同伴歓迎など100人を超える規模を見込んでいる。10月に正式案内を出す予定。

卒業年次別の参考ガイド

米寿	（88歳＝大正11年生）	中37回
傘寿	（80歳＝昭和4年生）	中45回
喜寿	（77歳＝昭和7年生）	高3回
古稀	（70歳＝昭和14年生）	高10回
還暦	（60歳＝昭和24年生）	高20回
卒業後10年	（平成11年）	高51回
卒業後20年	（昭和64年）	高41回
卒業後30年	（昭和54年）	高31回
卒業後40年	（昭和44年）	高21回
卒業後50年	（昭和34年）	高11回
卒業後60年	（昭和24年）	高1回
卒業後70年	（昭和14年）	中35回

創設100年の縁

明治38年　母校と早大

田村　大五（再録）

プロ野球を取材担当してから、40年ほどになります。ここ20年間に『日本プロ野球五十年史』と『六十年史』という、かなり分厚い本を出しました。これに早大野球部OB会（稲門倶楽部）から目をつけられ、12年に「来年創部百周年を迎えるから、『百年史』を作ってほしい」と頼まれました。これに取り組んでいる最中、この講演の依頼を受けて、母校野球部も百周年と同じだという縁に、ややびっくりいたしました。

百年というと、これが非常に面白い。早大は創部4年目の明治38年、アメリカへ遠征しています。日露戦争の真っ最中、国を挙げての戦い、『坂の上の雲』の時期であります。元勲大隈重信の支えがあるとはいえ、国賊、無駄遣いなど非難の嵐の中でした。

しかし、安部磯雄は「戦う人と、学問をする人とは違うのだ」と、引率して渡米したのですが、現地では要人たちとしきりに会っている。どうやらロシアと和平の仲介を頼む〝密使〟ではなかったのか、と思われるフシがあるのです。

遠征土産には。送りバント、エンドラン、二遊間のコンビネーションプレーなどから、捕手のマスク、スパイクなどまであげられます。つまり日本の野球の出発点といっていい、百年の歴史は、大変なものです。

大げさに言えば、日米の文化史に拘わって来る、といっていいかと思います。

さて、その早稲田へこの百年の間に、母校から行った人たちがいるのです。

まず昭和12年の入部者名簿に、小林喜八郎さん（中33）の名前があります。元市長の小林治助さん（中26）の弟。私の在学中、東門の向かい側に「柏崎製氷」があって、その店にコッペパンをよく買いに行きました。そこがかつて勤め先であったと聞き、もし在学中に知っていたら、今回の本にも役立ったろうにと思うと、非常に残念です。

その後に弟の正三郎さん（中35、フィリピンで戦死）もおられます。『新野屋」の新野博一さん（中35）も出てまいります。

さらに本町の「最上屋」の前にあった「桑与」の桑山吉郎さん（中29）もおられたそうです。桑山さんは、昭和8年に戸塚球場に初めてナイター設備が完成した時、新人戦の投手だったという話もあります。しかし、これらの方たちは、公式のリーグ戦出場の記録がありません。非常に残念です。

とはいっても、柏崎に帰って来ては、早稲田で身につけてきたものを、かなり伝えられただろうと考えて間違いありません。戦後に県下で優勝したのは、これらの方々、特に新野さんの力が大きかったことも、よく知っております。

一方私の在学中、柏崎の実業団の野球も盛んでした。その中でも洲崎恒一郎さん（中29）のことが、今でも忘れられません。元市長の洲崎義郎さん（中3）の長男、ご健在だそうですが、あのファーストの守り。非常にアクロバット的というか、両足をグラウンドにピッタリつけた守備。細い身体ながら、蝶が舞うようなスタイルが思い出されます。

ところで、私はかつての有名な野球人、例えば沢村栄治、久慈次郎、吉原政喜などを、知っている人たちがまだ健在のうちにと、訪ね歩く旅をしたことがあります。『野球の殿堂』入りしている、イーグルスの中河美芳一塁手には、鳥取の実家を訪ねました。

そこで、ご本人のプレーをしているフィルムも見せていただきました。〝タコ足の中河〟という守備ぶりが、何と少年時代に見た洲崎さんとそっくりではありませんか。おそらく後楽園でのプレーを見て、柏崎に持ち帰ったのではないかなど、密かに想像していたのですが…。

それにつけても、母校の野球。あの戦後の勢いは、今どうなったのでしょう。地方予選の結果が「今年も残念」では困ります。どうか、がんばるようにと祈っております。

《注》▽小林喜八郎＝元柏崎製氷社長。昭和31—36年母校監督、平成8年12月死去、78歳。長男昭一氏（高23）もOB▽新野博一＝元新野屋社長。昭和13年県初制覇の優勝投手（捕手は小林正三郎）、21—27年母校監督（21年準優勝、22年と24年優勝）、63年5月死去、65歳。長男京一氏（高22）は現OB会長▽桑山吉郎＝元柏崎常盤高校教諭。平成7年2月死去、78歳。長男登氏（高20）。

《付記》監督たちとして、川上哲治にはじまって長嶋茂雄、藤本定義、王貞治、三原脩、鶴岡一人、稲尾和久、仰木彬、広岡達朗、森祇晶、東尾修、野村克也、蔭山和夫、大沢啓二、杉浦忠らの名前が、次々に登場した。

総合建設業　東北工業株式会社　代表取締役会長　桑山　雄（高16）　柏崎市鏡町五—一二

角田建設株式会社　有限会社　角田不動産　代表取締役　角田　一成（高10）　柏崎市松美一—一—五一　電話（23）三六三八

株式会社　植木組　取締役会長　植木　康之（高15）　取締役社長　植木　義明（高23）　新潟県柏崎市新橋二番八号

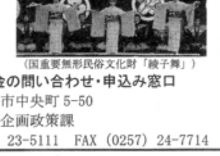
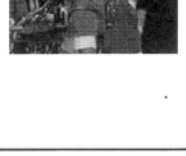
新潟清酒　銘酒　越の誉　原酒造株式会社　柏崎市新橋五—一二　東京営業所　板橋区徳丸七—一六—五　TEL（三九三五）一六一一

株式会社阿部建設　社長　阿部　尚義（高35）　会長　阿部　弘一（高7）　柏崎市比角二—三—二六　TEL（23）4173

学校法人　中延学園　理事長　佐藤　早苗（高5）　品川区西大井六—一—二三　電話（三七八四）二一三一

ガス化溶融リサイクル施設　シモダ産業株式会社　社長　霜田　彰（高18）　柏崎市松波二—七—四　TEL（二三）五二四〇

中越沖地震からの復興をめざして
「がんばろう！輝く柏崎～さらなる未来へ」
「あなたの想いをふるさと柏崎へ」
柏崎市に「ふるさと納税」でご寄付の応援をお願いします！
柏崎市　ふるさと納税　検索
http://www.city.kashiwazaki.niigata.jp/furusato/
※ホームページの電子メールからの寄付申込もできます



（国重要無形民俗文化財「綾子舞」）

■柏崎市ふるさと応援寄附金の問い合わせ・申込み窓口
〒945-8511　新潟県柏崎市中央町5-50
柏崎市役所企画政策課
TEL (0257) 23-5111　FAX (0257) 24-7714

公認会計士・税理士　武田　茂（高23）　千代田区九段北四—一—一　九段一口坂ビル8F　TEL（三二二一）八九〇五

税理士　佐藤　正幸（高20）　港区六本木三—四—二五　メゾン六本木501　TEL（三五八九）一六四一

閻魔堂復興基金のお願い

今回の大地震で閻魔堂も、大被害を被りました。一瞬のうちに向拝（ごはい）が倒壊し、土壁がはがれ落ち、基礎が割れて土台が動き、お堂がねじれ、全壊の判定を受けました。しかし、閻魔大王様をはじめとする十王様やほかの仏様は、奇跡的に鎮座していました。

現在、仮りの向拝を造り、柱をワイヤーで固定するなどして仮復旧し、やっと安心して正面から入れるようにして、えんま市を何とか開催できました。

今の閻魔堂は、明治7年に火災に遭った後、地域の方々の寄進によって、29年に再建されたものです。度重なる火災に懲りて土蔵造りにしてあります。今回の激震で、市内の土蔵造りの多くが倒壊しましたが、お堂は倒壊を免れました。

しかし、百十余年の歳月によって、随所に損傷をきたしております。この歴史的建造物を後世に残すため、本堂を修復し、向拝を再建したいと思っております。

閻魔堂は、檀家のないお寺です。地域の方々も同じように被害を受けており、なかなか復興基金が集まりません。ぜひ東京柏会の皆様からもご寄進を賜り、復興したい願っております。

【寄進の内容】〈寄進〉一口五〇〇〇円（一口以上賜れば幸いです）＝ゆうちょ銀行（郵便局）の振替（00570—8—96611、閻魔庵）をご利用ください。

〈寄進の使途〉閻魔堂の修復、向拝の再建

〈その他〉一口以上ご寄進いただいた方には、健康祈願とご先祖様の供養をさせていただき、御芳名を堂内に掲げ、末長く感謝の意を表させていただきます。

＊　＊　＊

発起人　閻魔堂責任役員代表・小粟　清作
閻魔堂住職・今井　徹郎（柏高12回卒）
義兄・橋本　桂一（元柏高教諭）
（所在）柏崎市東本町2—7—39
電話0257・22・2911